Library News
山口大学附属図書館報
ISSN 0388-5569
VOL.5 NO.3
(通巻15号)
1984.10

目次

五重の塔と『正法眼蔵』…杉尾玄有……1
寄贈図書……2
医学部分館（新館）のご案内……3
日　誌……4

五重の塔と『正法眼蔵』

杉　尾　玄　有

山口市の一角に，蒼然と古色をおびながらしかもこの上なく優美なすがたで建つ，ひわだぶきの五重の塔 ── その国宝の塔がある瑠璃光寺に『正法眼蔵』（しょうぼうげんぞう）の古い写本が伝わっているのを，市民もあまり知らない。かつては，この瑠璃光寺本は，岩波文庫『正法眼蔵』の口絵写真でそのおもかげの片鱗をうかがうことができるだけであった。いまは，ありがたいことに原写本が瑠璃光寺境内の資料館に展示されていて，誰もが，まのあたり見ることができる。

塔が建ったのが室町時代15世紀の前半，『正法眼蔵』の筆写は，同じ15世紀の後半と考えられる。近代の科学的建築技術の起こるはるか以前に，どういう工匠が，どういう技法であれだけの塔を，あのように美しく組むことができたか，驚異というほかない。それとともに，印刷技術の普及せぬ時代に，古写本のありかを尋ねもとめては，焼香礼拝して筆写し，この『正法眼蔵』をいまに伝えてくれた先人たちの労苦にも，われわれは驚異と畏敬の思いを捧げねばならない。

『正法眼蔵』の古写本として，愛知県の乾坤院本・広島県の洞雲寺本など，著名なものがいくつかある。そのなかで，瑠璃光寺本は独自の特色をもつ。すなわち，道元が13世紀にあらわした本文とともに，その本文の右や左にところどころ，語句の音・訓や意味が注記されているのである。その音は，おそらく道元が伝えた中国宋代の発音を示している（たとえば，「弁肯」＝ハイケン，「坐断」＝ソトン，「会取」＝ウイシュ，「行不得底」＝アンフテチ）。意味にかかわる注記もまた，おおむね著者道元の本意を正しく汲んだものであろう。瑠璃光寺本すべて83巻のうち≪行持≫の巻を取りあげて，これより調べてみることにしよう。

要領をえて簡潔な注記のしかたに，感心させられることが多い。「強為」＝シイテナス，「見成」＝アラワレナル，「掃除」＝ハライノゾク，「審細」＝アキラカニクワシク，「前架」＝モノオクトコロ，「後架」＝手水ツカウトコロ，「隠顕存没ニ」＝アルトナキトニ，「弁道功夫」＝ミチヲオコナウイトナミ，「普請作務」＝アマネクアツマリトリナス，というふうに注記されている。とりわけわれわれの注意をひくのは，おそらく幼い雲水たちのために，まことに親切な心くばりがなされているということである。「天使」＝天ノツカイ，「翌日」＝アクルヒ，「近日ハ」＝コノゴロハ，というような注記を見ていると，誰しも，思わず微笑をさそわれよう。筆者の温顔と，これを読む幼い雲水の純真な表情が見えてくる思いがする。

「雲衲」＝ソウノナ，「霞袂」＝僧ノ名，という注記もある。雲衲（うんのう）霞袂（かべい）はともに普通名詞であって，参禅学道の行脚僧を意味する。これを「僧ノ名」というなら，固有名詞にすりかえたことになり，まことに乱暴きわまる注解である。しかし，雲衲・霞袂を固有名詞と

思わせておけば，幼い雲水たちは，雲だの霞だの衲だの袂だのの字義からどうして行脚僧という意味が出てくるのか，などという不急・不要の詮索からいっさい解放されて，肝心なことだけに集中できるのである。まことに暖い思いやりというべきではないか。「精藍」＝寺名ナリというような注記についても，まったく同じことがいえよう。精藍（しょうらん）もほんらい，寺を意味する普通名詞でしかないのである。

「道士観」＝俗ノ居タルトコロという注記がある。しかし≪行持≫の末尾のあたりでは，「道家流」＝老子ノスエナリ，道士ナリ，という注記がみられる。注記の筆者は，「道士」が老子ノスエを意味し，「観」が道士の修行の場所を意味することは，十分に承知していながら，初学の幼い雲水を悩まさぬため「道士観」をただ，俗ノ居タルトコロとのみ説いているのである。幼き後輩への，溢れんばかりの慈愛ではないか。

もしも，これほどの慈愛をこめて『正法眼蔵』の本格的な注解を，この瑠璃光寺本の筆者（複数）が書きのこしてくれたなら，どれほどすばらしかったか，と思わずにいられない。『正法眼蔵』の注解書は，早くも鎌倉期のうちに，有名な『御抄』が成立するが，それ以後，江戸期までは空白となる。その空白が埋まるためにも，室町期の注解書が書かれなかったのは惜しかった。

古典の正しい本文を提供するとともに読者の通読をたすける ── そういう目的で本文のわきに通釈や部分訳を掲げた出版物が現代でも出まわっている（たとえば『新潮日本古典集成』）。瑠璃光寺本『正法眼蔵』の注記をもうすこし整備すれば，そのような注釈形式の嚆矢ともなりえたのかもしれない。しかし，瑠璃光寺本の筆者たちは，まことに禁欲的であった。幼少・初心の雲水への手びきを提供することには，上記のとおり，慈愛のかぎりをつくしている。しかし，『正法眼蔵』の根本の哲理にまで立ちいることは，みずから厳重に慎しんでいるかのようである。

まことは，この禁欲の姿勢のうちにこそ，この筆者たちの慈愛が，もっとも深くこめられているといえるのではないか。根本の哲理に開眼するのは，こちらが眼を開くより先に，あちらから開かされるのである。哲理そのものによって眼が打ちぬかれるのである。それを道元は≪法性≫の巻で，師に従い経巻に従うことが，無師独悟することだ，無師独悟は法性（ほっしょう）の施為だ，という。瑠璃光寺本の筆者たちは，幼少・初心の学人を文字のわずらいから解放するため，慈愛のかぎりをつくした。そうして，そこで学人たちを『正法眼蔵』の大海に突きはなした。突きはなされて学人たちは，哲理そのもの（法性）の大いなる手にわたされたのである。この大いなる手によって，学人たちの眼はおのずと開（あ）けられる。そのために学人のなすべきことは，おのれを空しくすることに努める，ただそれだけである。修行とは，このことにほかならない。（奇異となすなかれ，子どもが算数や理科がわかるときでさえ，「わかる」の本質は，この意味での「無師独悟」のほかにはない！）

塔はほんらい，釈尊の遺骨（仏舎利）を納めるところである。その釈尊の説いた教えもまた，大いなる哲理・物そのものの道理にかえることのほかではなかった。そうして，瑠璃光寺の五重の塔を組んだ工匠たちもまた，近代技術に先がけて，物そのものの建築的道理を，その身をもって究めることにより，あの美しい塔を，その身後，数百年の今日まで遺すことができたのである。道元は≪発無上心≫の巻に，力をこめていう，造像・起塔がそのまま成仏のおこないである，と。塔も工匠も，古写本の筆者たちも，数百年来，すでに仏である。　　（教育学部教授）

寄贈図書

（本館）

不破勝敏夫（名誉教授）

私の家族法　　徳山大学総合経済研究所　1984　　（徳山大学研究叢書２）

医学部分館（新館）のご案内

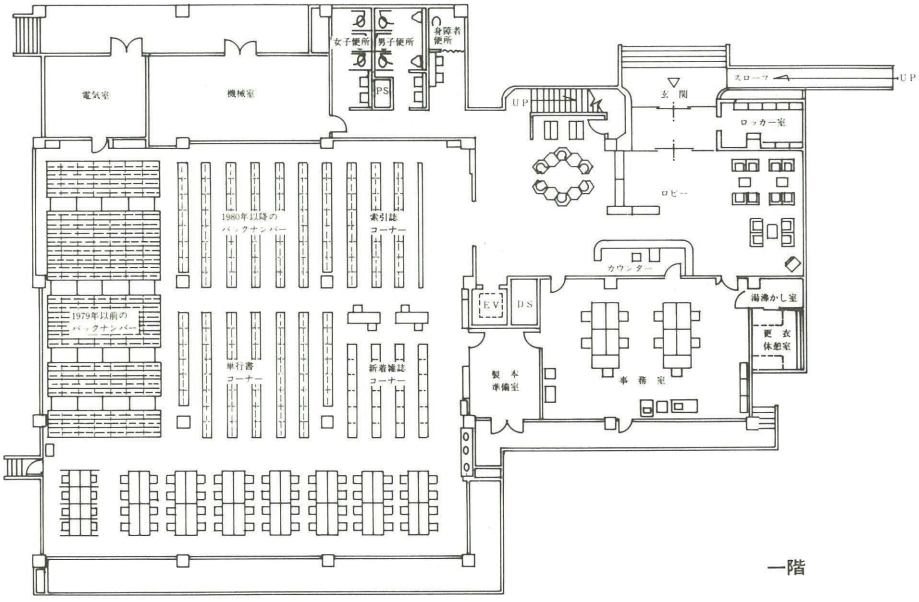
館報の前号で，当分館の新築竣工および移転作業のための休館を，お知らせしておりましたが，予定どおりに移転作業を完了し，8月20日より新館にて開館しておりますので，新分館についてご案内をします。

新分館の新築にあたっては次のような基本構想がたてられました。

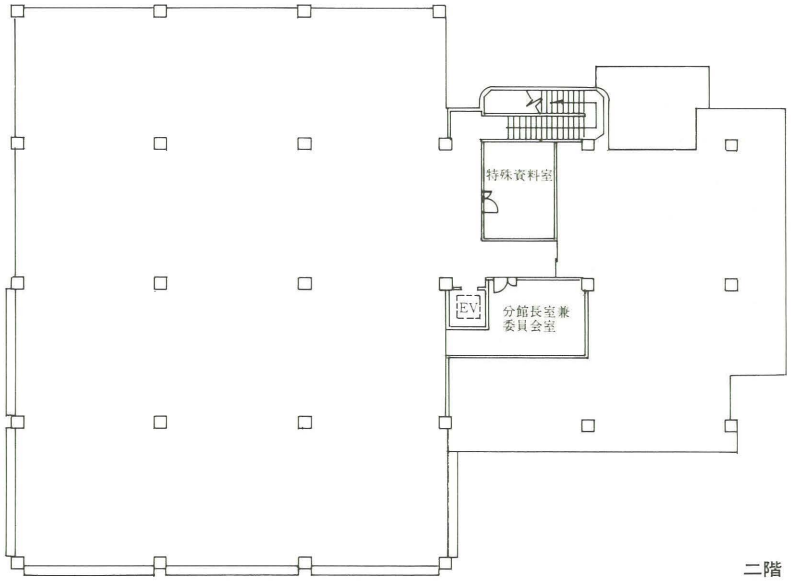
1. 当キャンパス3部局の共用図書館として，研究，教育，学習，診療に充分機能し得る，施設，設備とする。

   また全学的なLife Sience Library としての機能，および県内病院や医師会に対する地域医療センターとしての機能なども考慮したものとする。 ※

〔医学部分館平面図〕



一階



二階

※ 2. 集中管理方式および全館開架制に対応できる資料の収容能力，方式，閲覧方式，座席数，動線などとする。

3. 当キャンパスの特徴である，研究生，医員，研修医，看護婦および診療各科技師などの，教官，学生以外の利用対象者のことも，充分に留意したものとする。

4. 時間外開館に管理しやすい施設，設備とする。

5. 単行書，新着雑誌，バックナンバー，索引誌のそれぞれを，コーナーとして開架配置し，書庫と閲覧室の部屋区分をしない。

6. 業務の電算化および全国規模の電算機ネットワークに必要な機器の設置に充分なスペースを設ける。

7. 特別資料室。　8. 視聴覚室。　9. 演習室　を設ける。

10. 図書館周辺を樹木で囲み，静寂な思索に適した環境とする。

この基本構想にのっとって，具体的な設計図が引かれ，図のような部屋割りの図書館が，キャンパスのいちばん南前面にでき上がりました。

総面積 1,182 ㎡で，各階はそれぞれ一階 1,053 ㎡，二階 112 ㎡，三階17㎡となっており，現在はほとんど一階だけのものですが，二期工事で二階に開架閲覧室，視聴覚室，演習室など 600 ㎡が，増築される予定です。

全館が空調されており，座席数は68席です。

施設部の方々をはじめとする，関係者各位のご努力のおかげで，利用者にも好評であり，また管理するわれわれにも，非常に使い勝手の良い図書館になっています。

（医学部分館整理係長　昼馬逸郎）

日　誌

6月1日（金）　工学部分館図書委員会
6月7日（木）　第13回本館図書委員会
6月13日（水）　国立大学附属図書館事務部長会議（於　松山　にぎたつ会館）
6月14日（木）～15日（金）　第31回国立大学図書館協議会総会（於　松山　にぎたつ会館）
7月4日（水）　機械化推進委員会
　　電算化のための日本電気㈱との定例会
　　中国四国地区大学図書館研究集会第3回準備委員会
7月16日（月）～8月18日（土）　医学部分館，新館への移転作業
7月18日（水）　機械化推進委員会
8月16日（木）　機械化推進委員会
　　電算化のための日本電気㈱との定例会
8月20日（月）　医学部分館，新館開館
9月18日（火）　視聴覚コーナーの使用開始
9月27日（木）　機械化推進委員会
　　電算化のための日本電気㈱との定例会

編集・発行　山口大学附属図書館　〒753　山口市大字吉田　電話（0839）22－6111　内線788